

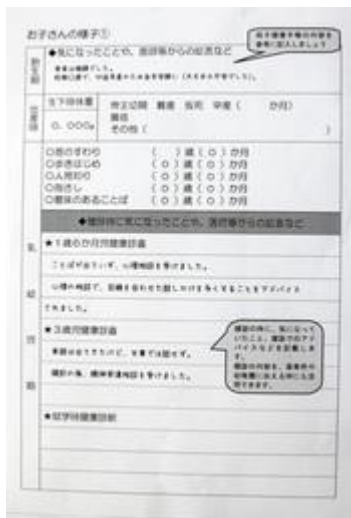


大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3159 号 2016.8.1 発行

発達障害児の様子、保護者が記入 「個別支援ファイル」で連携 自治体が作成、各機関で情報共有 北海道新聞 2016年7月26日



サポートファイルさっぽろのフェイスシートの記入例

発達障害児の保護者らが日ごろの子どもの様子などを記録する冊子「個別支援ファイル」が、札幌市や旭川市など道内各地の自治体で作られている。ファイルの情報を共有すれば、保護者や学校、医療機関、福祉施設が、それぞれどんな支援をしているかが理解でき、連携して子どもたちの支援にあたることができる。インターネットから無料でファイルを引き出すことができるほか、具体的な使い方を説明した手引きを作成している自治体もある。

個別支援ファイルは、障害があるなど継続した支援が必要な子どもについて、病院や学校での様子や受診記録を書き込む専用の冊子。保護者が記録して保管するのが基本だ。進学や就労で支援の担当者が代わったり、利用する福祉施設や病院を追加、変更した際、保護者が新しい担当者に子どもにつ

いて説明するための資料として使うことを想定している。

札幌市では、「サポートファイルさっぽろ」と、利用ガイド「作り方・使い方」をまとめた。いずれも市のホームページから無料で引き出せるほか、市役所や区役所で印刷した冊子を無料配布している。

ファイルは4部構成。乳幼児期の健診やこれまでの病歴などを記述する「フェイスシート」、療育機関などでの相談内容を記す「ヒストリーシート」、現在の子どもの目標と支援計画を書く「サポートシート」、就労の様子などを記録する「オプションシート」となっている。

利用ガイドでは、フェイスシートへの記入例として、1歳6カ月健診で「ことばが出ず、心理相談を受け、目線をあわせて話しかけるよう助言された」などと、具体的な使い方を記している。

同市障がい福祉課は「ファイルのすべての項目を一度に全部書くのは大変なので、必要な分だけを記入するといいいのでは」と助言する。利用ガイドの作成に協力したNPO法人北海道学習障害児・者親の会クローバーは「何歳で、どこの医療機関を受診したか」などの記録を残しておく、将来、障害年金を請求する時にも役立ちます」と話している。サポートさっぽろの問い合わせは、同課（電）011・211・2936へ。

上川教育局などが作ったファイル「すくらむ」も、相談記録などの「基本情報」、子どもの性格や支援目標などの「支援計画」、受け取った障害者手帳などについて書く「オプション」で構成。旭川市や上川管内美瑛町など、管内10市町がこれをもとにそれぞれの自治体版を作った。

すくらむを作成した検討委員会の委員長だった北大大学院の安達潤教授（特別支援教育）

は「子どもの苦手な点だけではなく、得意なことなどプラス面も含め、発達の様子を総合的に記述する内容になっている。支援にかかわる人たちが、子どもを理解するのに役立つ」と話す。すくらむの問い合わせは、上川教育局義務教育指導班（電）0166・46・4951へ。

このほか函館市、苫小牧市、帯広市なども個別支援ファイルを作り、ホームページで公開している。（編集委員 中村康利）

親の病気子どもにどう伝える？ 「誰のせいでもない」と教えて 疑問抱え込まない環境づくりを 身近な情報教え、絵での病状説明も有効 北海道新聞 2016年7月31日

安達梓さん



子育て世代が重い病気になった時、子どもにどう伝えるのか、どう接していくのか悩む親は少なくない。体験者や子どもの心のケアに携わる専門家に話を聞いた。

「お父さんが入院しているのはなぜ」

夫が脳出血で倒れ、重い障害が残った2000年、札幌の病院に搬送された直後、当時小学5年の長女と小学3年の次男の質問に母親の水口美津子さん（55）＝札幌市＝は「頭の病気なんだよ。大丈夫だよ、と答えるのが精いっぱいだった」と振り返る。

中学3年の長男は医師の説明を一緒に聞いたが、その頃は小樽に住んでいたため長女と次男は自宅で祖父母に面倒を見てもらっており、治療中の父の姿を見たのは約10日後。父の急変に長女はイライラすることが増え、次男は「お母さんと一緒に病院に行きたい」と登校を嫌がった。長男も頭痛を訴えることがあった。

水口さん自身も精神的に不安定だったことや夫が少し意識を取り戻し、状態が安定したため、3カ月後に実家に転居。祖父母や学校のサポートを得て、子どもたちは落ち着きを取り戻したという。詳しい病状は生活が安定してから少しずつ伝えた。水口さんは「小さな体で受け止めようとする子どもの気持ちを否定したり、無理強いしたりせず、笑顔を手掛けた。自分も倒れないよう周囲に助けを求めてやってきた」と話す。

9年前に乳がんを発症した空知管内の主婦（47）は地元を離れて手術することになり、その間、家事を頼むために当時中学1年の長男には病名や見通しを告げた。小学2年の次男には「まだ理解できないだろう」と曖昧にしていたが、『（次男が）布団の中で泣いている。ちゃんと説明してあげて』と長男に言われ、はっとした。子どもなりに何か感じていたんだと分かり、反省した」と話す。

手稲溪仁会病院で子どもたちを心理的・社会的に支援する専門職「チャイルド・ライフ・スペシャリスト」の安達梓さんは「どう伝えるかは家族によって違い正解はない」とした上で、「子どもは大人が思っている以上に理解して受け止める力がある」と話す。

周囲の様子をよく見ていて話を聞き、断片的な情報から想像を膨らませて「自分のせいで親が病気になったりしたのでは」と思い込むこともあるという。伝える時は、病気になったのは誰のせいでもないことを教えることが重要だ。

幼児なら親が入院などで不在になる時「保育園の迎えは誰がくるのか」といった生活密着の情報をその都度、示すと気持ちが落ち着きやすい。児童には体の絵を描いて病気を説明するなど具体的な情報が有効だ。

闘病が始まったり、病気を伝えたりした後に「以前と変わらない反応もあれば、夜泣きや親から離れられない、学校に行けなくなるなどの反応が出ることもあるが、それは自然なこと」（安達さん）。病気について疑問を抱え込まず、口にしやすい環境をつくることも不安を和らげる。安達さんは「子どもの思いを聞いたり、親が子どもを大切に思っていたりすることも伝えてほしい」と話す。

親が子どものことで悩んだ時は看護師や患者会などに相談するのもよいという。(石丸厚子)

短期入所生活介護(ショートステイ)ってどんなサービス? 泊まって食事や入浴、運動も 北海道新聞 2016年7月29日

<質問> 在宅の高齢者が短期間泊まって介護サービスを受ける短期入所生活介護(ショートステイ)について教えてください。また最近よく聞く「お泊まりデイサービス」とは何ですか。

<回答> 特別養護老人ホーム(特養)や介護老人保健施設(老健)などを、短期間泊まって利用するのが短期入所生活介護(ショートステイ)です。短期入所専用の施設もあります。

利用する理由は問われません。介護している家族が旅行などで留守にしたり、入院したり、あるいは休養を取りたいからなど、理由はさまざまです。実際に、定期的にショートステイを使って介護者の負担を軽くすることで在宅生活を続けられる、という方もいらっしゃいます。また、本人が短期間の集中的な機能訓練を希望して利用する場合もあります。

札幌市の場合、利用料(金額は1割負担の場合)は特養の2人部屋以上(多床室)を利用した場合に1日あたり要介護1で610円、要介護5で881円(このほかに食費、滞在費がかかりますが施設によって違います。また送迎や機能訓練加算などがかかる場合があります)。老健の場合は要介護1で835円、要介護5で1051円となります。要支援の人も利用することができ、特養多床室は要支援1で446円、要支援2で549円となっています。

ショートステイは1泊2日から利用できますが、何日利用するかはケアプランで決めていきます。ただし、利用できる日数には二つの制限があります。

一つが利用累計日数で、要介護認定期間のおおむね半数を超えてはいけないというルールです。例えば、認定の有効期間が半年(180日)だった場合はその半数の90日を超えてはいけないというものです。ただし、家族の病気などで半数を超えて利用しなければならない必要がある場合は、ケアマネジャーを通して市町村と協議して認められることもあります。

もう一つが連続して30日を超えての利用は保険給付の対象外となり、自己負担となる点です。30日を超えて連続して利用する場合は介護保険を利用しない自費でのサービスになります。1日だけ自己負担でサービスを利用して、再び長期利用するようなケースに対しては、昨年の制度改正で施設の収入が減額されるようになり、連続利用には制限の厳格化が進められています。

次に「お泊まりデイサービス」とは何かということですが、これは通所介護が終わった後、そのままデイサービスに宿泊をする保険給付外の自費サービスです。保険給付外であったことから行政のチェックが届きにくく、プライバシーへの配慮や管理上の問題が出たこともあり、昨年度から実施する場合は自治体への届け出が必要になったほか、宿泊室の

短期入所生活介護(ショートステイ)の特徴

目的

- 利用者の孤立感解消や心身機能を保つ
- 家族などの介護負担を軽くする

内容

- 短期間泊まって、入浴、食事などの日常生活の支援や、運動などの機能訓練を受ける

注意ポイント(利用の制限)

- 利用日数は要介護認定期間の日数のおおむね半数を超えてはいけない
- 連続して30日を超える利用では、超えた分が保険給付の対象外で、自己負担になる

広さなどに関するガイドライン（おおまかな基準）が出されています。

保険外サービスですから利用料や食事代は事業者が決めるため、金額はそれぞれですし、部屋の広さや職員体制もまちまちですので、利用の際にはケアマネジャーとよく相談してください。（北海道老人福祉施設協議会会長、特別養護老人ホーム厚別栄和荘総合施設長瀬戸雅嗣）

【聴診記】高齢者の医療費を考える

西日本新聞 2016年07月30日

公的医療保険制度で全国の医療機関に支払われる医療費の総額は年々増加、2013年度は40兆610億円になったことを前回紹介した。これを人口1人当たりに換算すると年間31万4700円使っていることになる。

さらに65歳で区切ると、65歳未満は1人当たり年間17万7700円、65歳以上は1人当たり同72万4500円。高齢者は、若い人の4倍以上を使っている。

同制度の保険者（運営主体）の一つで、75歳以上が加入する福岡県後期高齢者医療広域連合は昨年9月、福岡市内で健康長寿福岡大会を開き、講演『最後まで 人生の主人公たるために』 - 老いと死から逃げずに生きる』を催した。講師は著書「大往生したけりゃ医療とかかわるな」（幻冬舎新書）などで知られる中村仁一氏（76）。医師で老人ホーム「同和園」（京都市）付属診療所所長を務めている。

その講演録をめくると、中村氏はこんなことを語っている。

「死に時が来たら、延命なんぞされて、ぶざまな姿をさらさないで、潔く死ぬというこれに尽きると思います。では、死に時っていつか？ 自分で飲み食いできなくなった時です」

「死ぬというのは、枯れること。枯れて死ぬんです。これは、一番楽で、自然で、穏やかなんです。ところが、点滴されたり、ここ（腹）から、流動物を入れられたりするの、枯れるのを邪魔するんです。本人を苦しめる。家族は満足かもわからない」

「あれ、枯れ木に肥料ですよ。しかも、医療費もかかる。介護の費用もかかる。こんな事をしていたらですね、今の日本の良い制度は続きません」

中村氏は高齢者の健診については、次のような見解を述べている。

「私も75歳だから長寿健診の通知がきました。行ってませんけどね。いまさら、年寄りの“徴兵検査”やっしてどうするの？」

「われわれ医者にとっては、あんなおいしい仕組みはないんです。自覚症状のない元気な人間が、健診受けてひっかかった。医者のところに来てくれるんです」

「何の症状も無かったなら行くなっているの、健診なんかはね。政府も悪いんですよ、受診率が何パーセントだとか、上から指令が来てね。それでいて、かたっばじゃ医療費が高いなんて行ってね。矛盾してますよ」

さらに、こんな発言もあった。

「今、ボケた年寄りが、人工透析、血を洗っていますよね。週3回ぐらい。そう、ボケていますからね。何されているか理解できない。大声だして暴れまくりますから透析なんてできませんものね。皆、縛り上げて一服盛っていますよ。そうでもしないとおとなしくしていませんから。もう、完全に枯れ木に“肥料”とっていいですよ。あれ、年間400万円、500万円（医療費が）かかっている訳ですから、1人につき。枯れ木に“肥料”ってというのは、考えないといかんですね」

「自分で食えなくなったボケた年寄りに、総入れ歯。これもどうかと思いますけれど。まあ、今、歯医者も食えなくなっていますからね」

同広域連合は今年も9月18日に福岡市・天神のアクロス福岡で健康長寿福岡大会を開き、講演を催す。

演題は「薬は5種類まで！～年々、飲む薬が多くなっていませんか？」。講師は東京大学大学院教授（東京大学医学部付属病院老年病科長）の秋下雅弘氏だ。

秋下氏は当日の講演で、加齢に伴い生活習慣病などの慢性疾患が積み重なり、70歳以上では平均6～7種類服用しているとされることを説明。多剤服用の問題点として副作用の増加や飲み忘れを挙げ、「飲み忘れは薬剤費の無駄になるし、多剤服用自体が薬剤費を押し上げている」などと指摘する見通しだ。

福岡大会は今回も「高齢者と医療費のこと」を考えさせられる内容になりそうだ。

福岡大会は当日午後1時から。ロコモ予防講習などもある。だれでも参加でき無料。中村氏の講演録も希望者に無料で提供・送付する。いずれも問い合わせ、申し込みは同広域連合＝092（651）3111。

障害者施設の警備員「危険人物と事前に知らなかった」

TBS系（JNN）2016年7月31日

神奈川県相模原市の障害者施設で19人が殺害され26人が重軽傷を負った事件で、事件当時、施設にいた警備員が初めてカメラの前で証言し、容疑者の男が「危険人物だとは事前に知らされていなかった」と話しました。

この事件で、警察は障害者施設「津久井やまゆり園」の元職員・植松聖容疑者（26）を殺人などの疑いで調べています。事件当時、施設には職員8人と警備員1人がいましたが、この警備員が初めてカメラの前で証言しました。

「ドーンと音がして、それで目が覚めた。ドアが閉まった音。（Q. 危険人物がいたということは知らなかった？）うん」（事件当日、施設にいた警備員）

警備員は植松容疑者が施設から逃走する際にドアを閉める音で目を覚ましましたが、事件が起きたことに気付かず、救急車が到着するまで寝ていたということです。

また、植松容疑者が在職中、入所者に危害を加える趣旨の発言を繰り返し、施設を辞めさせられたことや防犯カメラを増設した理由についても知らされていなかったということ、施設側の管理体制が問われそうです。

官房長官 障害者施設で献花 心のケアと再発防止に全力



NHK ニュース 2016年7月31日

菅官房長官は、19人が犠牲となった相模原市の知的障害者施設を訪れ、花を手向けて犠牲者を悼んだあと、記者団に対し、入所者の心のケアとともに事件の再発防止に全力を挙げる考えを示しました。

菅官房長官は31日午後、19人が犠牲となる事件が起きた相模原市の知的障害者施設、津久井やまゆり園を訪れ、正門前の献花台に花を手向けて犠牲者を悼んだあと、敷地内にある体育館で避難生活をしている入所者らの様子を視察しました。

このあと、菅官房長官は記者団に対し、「強い憤りを覚えると同時に、心からお悔やみを申し上げたい。入所者の心のケアが重要であり、同席した神奈川県副知事らに対し、徹底して支援するよう要請した」と述べました。

そのうえで、菅官房長官は「二度と再びこうした事案が発生しないよう、真相の究明と再発防止に全力で取り組んでいる。措置入院後のフォローアップが、具体的にどこまで行われるべきかも含めて、今究明している」と述べ、事件の再発防止に全力を挙げる考えを示しました。

相模原、コンビニで血洗い流す

共同通信 2016年7月31日

相模原の障害者施設殺傷事件で、元施設職員植松聖容疑者（26）が神奈川県警津久井署に出頭する直前、コンビニに立ち寄り、手や腕に付いた血を洗い流していたことが31日、捜査関係者への取材で分かった。津久井署捜査本部は、現場から立ち去った後の足取りを詳しく調べる。

捜査関係者によると、植松容疑者は津久井署へ車で向かう途中、コンビニに寄ってトイレを利用。手や腕に付着した血を洗った。さらに、洋菓子類を購入。支払いに使用した千円札にも血が付いていた。植松容疑者の車内には食べかけの洋菓子が残されていた。

社説：ポケモンGO／マナー守ってこそその楽しみ 神戸新聞 2016年7月31日

スマートフォン向けのゲーム「ポケモンGO（ゴー）」の配信が始まって1週間が過ぎた。民間調査会社の試算では、当初の3日間で1147万人がゲームを取り込んだとみられ、その経済効果は「ポケモノミクス」と呼ばれて期待を集める。

熱狂的なブームと比例して各地でトラブルが急増している。中には命を落としかねない危険なケースもあり、政府が注意喚起に乗り出した。安全に使用し、マナーを守ってこそその楽しみと心がけたい。

日本発のキャラクター「ポケットモンスター」を基に考案された「ポケモンGO」は、GPS機能を使ってスマホの画面に街の風景を映し出し、その中で架空のポケモンを捕まえる。従来のように主に屋内でじっと画面を見ながら遊ぶのではなく、ポケモンを探して街を歩き回りながら楽しむ新しいタイプのゲームだ。

車や自転車を運転しながらゲームに興じ衝突事故を起こしたり、道路交通法違反（携帯電話使用）で摘発されたりするケースが目立つ。運転中でも、近くにポケモンがいないか気になって仕方がなくなるらしい。

歩きながらスマホを使う「歩きスマホ」の危険性が叫ばれて久しい。本人はもちろん、周囲を危険にさらしてゲームに没頭することのないよう留意してもらいたい。

ゲームの運営会社に対し、広島市の平和記念公園などでポケモンを表示しないよう求める動きが広がる。駅のホームや線路、病院や裁判所などの施設もそうだ。運営会社はこうしたゲームの舞台としてふさわしくない場所に配慮し、トラブルを未然に防ぐよう対応を急ぐべきだ。

夏休みに、子どもたちが犯罪などに巻き込まれないよう注意することも必要だろう。ゲームを通して知らない人から接触を求められても応じないよう、政府も警戒を呼び掛けている。

GPSとゲームの組み合わせは地域おこしにつながる可能性を秘めている。過疎地に珍しいポケモンを配置すれば人が集まることは容易に想像できる。名所や特産物と結びつけるプランを練る自治体もある。

ゲームを楽しみながら歩くことが健康づくりに役立つとの意見が聞かれる。さまざまなアイデアを実現させるためにも、まずはゲームとの付き合い方を考え、トラブルを防止することが大事だ。

【主張】ポケモンNO 危険な場で生息させるな 産経新聞 2016年7月31日

スマートフォン向けゲーム「ポケモンGO（ゴー）」で、公共施設などからゲームの舞台にしないよう削除を求める「NO（ノー）」の動きが相次いでいる。

現実の街を移動して進行するゲームの特性上、トラブルは懸念されていた。開発・運営会社は問題を解決し、改善に努めてもらいたい。

日本国内でゲームが配信されて1週間になるが、世界的に人気を集める一方で、トラブルも現実となっている。

スマホのGPS（位置情報）機能を使い、実際の移動とスマホ画面を連動させて現実社

会でポケモンを捕まえるなど、これまでにないゲームだ。

米ナイアンティック社が開発した。ゲームに登場する架空生物ポケモンは、日本で生まれた任天堂ゲームのキャラクターだ。

トラブルは、ポケモンが危険な場所や立ち入り禁止区域に現れるほか、対戦場所や捕まえるための道具が入手できる公園などに、プレイヤーが押しかけるためだ。

J Rと私鉄各社はホームや線路に現れないよう開発会社に要請した。電力会社は原子力発電所の施設を外すよう求めている。当然の要請だ。

静謐（せいひつ）であるべき環境が損なわれる心配もでている。広島市は、平和記念公園の原爆の子の像や原爆ドームが対戦場所などに設定されているとして、8月6日の平和記念式典までに設定削除などの対応をするよう要請した。

開発・運営会社側は、利用者に注意を呼びかけるほか、ゲームの公式ホームページを通じ、不適切な場所の削除要請を受け付けている。明らかに不適切な場所や、利用者を危険にさらす施設などは迅速に削除してほしい。

それ以前に、自らそうした場所を「生息地」から外しておくべきだった。

歩きスマホによる事故や、ゲームに熱中する女性を狙った痴漢が現れるトラブルも起きている。ポケモンが悪いわけでない。危険な場所で遊ばないよう、プレイヤー自身の良識も問われる。

鳥取県が鳥取砂丘をポケモンGOを安全で自由に遊べる「解放区」として宣言するなど、観光面の活用にも期待は高い。

ブームが最新技術を使うリテラシー（理解し活用する力）を高める機会となれば理想的だ。

論説：ポケモンGO騒動 スマホのマナー注意して 佐賀新聞 2016年07月27日

スマートフォン用ゲーム「ポケモンGO（ゴー）」の人气が過熱している。従来のゲームと異なり、拡張現実（AR）の機能を使って屋外で楽しむゲームだが、交通事故などのトラブルが相次いでいる。ゲームをしながら車を運転するという問題のある使い方が後を絶たず、スマホのマナーについて改めて注意喚起が必要だ。

「ポケモンGO」がこれまでのゲームと違うのは、アニメなどの動画を目の前の風景に重ね合わせることができるAR機能を使っていること。地図上を利用者がどう動いているかを知らせる位置情報も活用し、主人公の気持ちになってポケモンを探す仮想の「冒険」が屋外で楽しめる。

ポケモンは子ども向けのゲームで始まったが、テレビアニメも20年近く続いていることもあり、ファンの年齢層は広い。インターネットの掲示板には珍しいポケモンをどこで見つけたかの書き込みも増えている。都市部ではうわさになった公園などに利用者が押しかけ、佐賀県内でも商業施設や観光地、山中で、真偽不明ながら目撃情報が寄せられている。

屋外で楽しむゲームだけに、のめり込んで周囲が見えなくなるのが問題だ。高速道路に入り込んだり、交通量の少ない場所でヒグマらしき動物と遭遇するなど、国内でも信じがたいケースが相次いでいる。

警察庁によると、25日午前11時半の時点で、車やバイクの運転中にポケモンGOで遊んでいたとして、全国で71件の摘発があったという。さらに4件の人身事故が起きている。人命を奪う事故は起きてはいないとはいえ、スマホの画面を見ながらの注意散漫な運転が多発すれば、いつ重大な事故が起きてもお不思議ではない。

歩きながらのスマホも危険だ。スマホを片手に、街中でポケモンGOに没頭している成年男性を見たことがあるが、早足でまっすぐに突き進み、周囲はまるで見えていない。大丈夫だと思っているのは、本人だけだということを胸にとどめてほしい。

政府は配信初日の22日から、屋外での熱中症対策や電池切れした際の連絡手段の確保

なども呼びかけている。利用者同士が対戦できるゲームでもあり、出会い系のアプリのように不審者が近づいてくる危険性があることも訴えている。

ゲーム運営会社もこれだけの騒動になっていることを重く受け止めてほしい。少なくとも危険な場所やプライバシーの侵害などで苦情が寄せられたところには、ポケモンを置かないように設定の変更は必要だろう。

ポケモンGOにはさまざまな問題点があるとはいえ、拡張現実の活用法や可能性を示したという点で評価できる側面もある。利用者がこの新しい技術を使い、育てることで、ビジネスなどに活用分野を広げることもできる。

今回の騒動が問題提起しているのはスマホのマナー違反だ。使うべきでない場所や時間帯に配慮するのは当然なことで、子ども以上に大人たちが問われている。

夏休み中に家族でいろんな場所に出かけた際に、珍しいポケモンと出会うことができれば、いい思い出にもなるだろう。ゲームはルールを守ってこそ心から楽しむことができる。
(日高勉)

社説：子供の安全対策 見守りと教育の両輪で

毎日新聞 2016年8月1日

子供の連れ去り事件が相次いでいる。一昨年7月、岡山県倉敷市で小学5年の女兒が男に誘拐されたうえ監禁され、5日後に救出された。同年9月には、神戸市で小学1年の女兒が男に誘拐され殺害された。

今年3月、埼玉県朝霞市の15歳の少女が監禁先から逃げ出し、保護された事件も記憶に新しい。車で男に連れ去られ、実に2年あまり監禁状態に置かれていた。

最近公表された警察白書によると、略取誘拐事件の全被害に対する子供の被害の割合は4割以上と、極めて高かった。子供がこうした犯罪に巻き込まれないための取り組みを学校や警察、地域が一丸となって進めていきたい。

車などによる連れ去りは、下校時間帯の人目につかない道路などで多く起きている。

学校現場では、防犯教室などを通じて子供たちに注意を呼びかけている。防犯標語の「イカのおすし」がよく知られる。「イカ(ついて行かない)の(乗らない)お(大声でさけぶ)す(すぐ逃げる)し(知らせる)」だ。不審者に出会った時の機敏な対応を促している。

最近では地域で子供を見守る動きも進んでいる。「子供110番の家」のステッカーを張った家や商店などには、危険に遭遇した子供がかけこめる。警察も不審者対策のため、下校時間帯の通学路などでのパトロールを強化している。

こうした周囲の取り組みと併せ、子供たちが学校周辺を歩き、自分たちの目で防犯マップ作りを始めた学校がある。千葉県柏市内の小学校は昨年、科学警察研究所が開発したパソコン用のソフトを活用し、社会科の授業の一環で地図を完成させた。

使ったのは、人工衛星の電波で位置を測定できる全地球測位システム(GPS)受信機と、録音用のICレコーダー、デジタルカメラだ。それらを持ってグループごとに学校周辺を歩き、不審者が現れやすいような危険な場所の写真を撮ったり、不審者情報の張り紙の内容などを読み上げて録音したりした。

帰校後にソフトを使って情報をパソコンに入力して地図を完成させた。現場でメモを取るなどの手間をかけずに作れるのがメリットだ。

不審者に出くわした時の対応力はもちろん必要だが、危険な場所を事前に知り、近づかないことで不審者に出会わないことを目指しているという。また、危険な場所を学校や地域の力で危険でない場所に変える環境改善のきっかけにもなる。

子供たちの自主性を生かした防犯教育をさらに進めてほしい。地域の見守りなどと併せ、卑劣な事件を防ぎたい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

